

梨

●奈良県吉野郡大淀町

秋のくだものとして古くから親しまれている梨。梨の産地といえば鳥取県が有名だが、関西にもキラリと光る名産地がある。二十世紀梨の栽培に一役買いつけて、現在もうまい梨作りにこだわる奈良県吉野郡大淀町だ。

奈良県のほぼ南半分を占める「吉野」は、豊かな自然とサクラ、歴史、修験道の

関口にある大淀町は100年以上続く梨の産地で、二十世紀梨の栽培に大きく貢献した歴史がある。大淀町と五條市の一部にまたがる大阿太高原が梨の産地なんです。帶は石がゴロゴロ混じった水はけの悪い赤土の粘土質という土壤条件ですが、陽当たりの良さと昼夜の寒暖差が果樹栽培に適しています。梨の栽培がさかんになったのは奥徳平氏の功績が大きくて、彼は札幌農学校を卒業し、栽培地として選んだのが大淀町でした。当時、千葉県で新種のうまい梨(二十世紀梨)が見つかり、苗木が全国に広がりましたが、どこも栽培に苦戦しました。梨は病気や虫に弱く、とくに二十世紀梨はその傾向が強かつたんですね。やがて近隣農家にも梨の栽培法が伝わったのですが、いち早く栽培に成功したのが奥徳平氏でした。バラフィン紙を用いて梨を袋にかけするという技術を発明したんです。やがて近隣農家にも梨の栽培法が伝わったのです。

す。作業しやすいよう低い樹形にするのがポイントで、同時に有機肥料を撒いて土作りも行います。芽かき、摘蕾、花間引きなどを経て、やっと交配の工程に進みます。結実する5～6月頃、不要な果実を除去します。このようにして袋かけに至った梨は厳しいオーディションに勝ち残ったスター選手みたいなもの。そんな選りすぐりの梨なので、収穫のタイミングはものすごく気を使います。たつた1日違うだけで味が変わるので、今日採るか明日採るか、一玉ずつ吟味します。収穫は父と僕のふたりだけでやります。ここで手を抜くと1年間の自分を否定することになるので、需要の多いお盆の時期であろうと妥協しません。人間の都合に合わせるのがではなく、つねに梨ファーストでありたいんです」

り、梨栽培を行っている。「めぢやめぢや
広い」です(笑)。果樹は菌が付きやすいの
で、1年放つておいて翌年再開するとい
うわけにはいきません。とくに梨はデリ
ケートなのであつという間に菌が蔓延
し、木が死んでしまうんです。続けるか、
きっぱりやめるかですね。僕は、代々
守つてきた木を伐りたくないという農
家さんの思いを受け止め、日々手入れを
しています。果樹栽培は成長のようすを
見守ることができるのも楽しいですよ。
仕事という感覚ではなく、生活の延長とし
て自然体でやっているので、つらさを感じ
ません。植物相手だから対人関係のス



みじん切りの梨がたっぷり入った梨カレー(500円)。炒めた玉ねぎと梨の甘みによってマイルドな辛さに仕上げている。ゴロンと大きめに切った鶏肉との相性もいい。古代米を混ぜて炊いたご飯、地図で探れた季節の野菜が添えてあり、栄養、彩り、ボリュームとも満点。旬の時期だけ、それ以外は旬の甲斐やチゲ、チゲづく



「私たちちは梨をテーマにまちおこし活動を行なう『梨の花プロジェクト』」といふアーティスティックな園内が、その名の如く、まるで花園のようだ。園内には、アーチ型の木製の橋や、木の柱で支えられた木製のアーチなど、木造の施設が点在する。また、木の柱やアーチの間に、木の葉や花の模様があしらわれた看板が、随所に見受けられる。また、木の柱やアーチの間に、木の葉や花の模様があしらわれた看板が、随所に見受けられる。

「おのれの名前が、ハナミズキの實りで、實りに来られます。園主の工夫によって梨栽培の味が微妙に違うので、ぜひ自分好みのイチオシを見つけてほしいですね」(榎木さん)

わり、高級フルーツとして国内だけではなく、ロシアや台湾に輸出するほどの人気を得たようです」と大淀町役場建設産業課の榎本貴弘さんは言う。

明治の大正期、世間に名をとどろかせた大淀町の梨だが、現在他県ではお目にかかるれない希少な梨となっている。「年間千トン弱の小さな産地」ということでありますが、収穫に対するこだわりが他所に流通しにくい理由といえます。十世紀梨や幸水などの和梨に分類される品種は収穫した時点での糖度が決まるので、収穫後はそれ以上甘くなりませ

ん。そのため大淀町では梨を樹上完熟させて収穫しますが、あまり日持ちしないので共同出荷を行っていないのです。つまり、完熟梨は市場流通に乗せられないため、スーパーなどでは販売せずに農家の直売所などでお求めいただいているのが実情です。しかし、知る人ぞ知るところはこのことで、シーズン中は県内外から

ジヤムなどです。旬の時期は生の梨を伸ばす
いますが、冷凍の梨をストックしていく
ので年中、梨メニューを召し上がるついて
ただけます。とくに人気なのが梨スムージー
で、独特のトロトロ感が大受け。や
みつきになるお客様が多いですよ。大
阿太高原の梨と梨の花に関心を寄せて
いただけたらうれしいですね」とメン
バーのみなさんは口をそろえる。
清流・吉野川が注ぐ中山間地域に極上
の梨の産地があつた。愛情のこもつたう
まい梨をぜひ、試してほしい。